



証券コード：4526

2025年度 第2四半期（中間期）決算説明会

2025年11月25日

登壇者

代表取締役社長

望月 敦

常務取締役

富取 隆浩

1. 2025年度 第2四半期（中間期）業績
2. 2025年度 通期業績見通し・今後の取り組み

富取：皆様、おはようございます。富取でございます。まず私から、2025 年度中間期の業績についてご説明いたします。

- 売上高**472**億円（前年同期比+0.2%）
営業利益**40**億円（前年同期比▲11.6%）
- 国内事業の営業利益は広告宣伝費の減少などにより
前年同期を上回る
- 海外事業は中国での販売不振が業績を下押し
東南アジアや欧州では価格競争が激しさを増す

中間期業績のポイントを3点にまとめております。

1点目、売上高は前年同期比0.2%プラスの472億円となりました。営業利益は前年同期比11.6%マイナスの40億円となりました。

二つ目、国内事業につきましては、国内食品事業、国内化成品その他事業ともに、営業利益、売上高で前年同期を上回りました。

三つ目、海外事業につきましては減収減益となりました。特に中国においては景気の悪化により販売量が減少、またアジア、ヨーロッパにおいても汎用品の価格競争が激しさを増しており、厳しい結果となりました。

- ・ 売上高は前年同期より増加も、期初予想を17億円下回る
- ・ 親会社株主に帰属する中間純利益は3.3%増加

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	増減率	期初予想
売上高	47,149	47,265	+115	+0.2%	49,000
営業利益	4,626	4,091	▲534	▲11.6%	4,000
営業利益率	9.8%	8.7%	▲0.9pt		8.2%
EBITDA (営業利益+減価償却費)	6,202	5,772	▲429	▲6.9%	-
親会社株主に帰属する中間純利益	3,255	3,361	+106	+3.3%	2,900

為替影響額：売上高▲177百万円、営業利益▲17百万円

期中平均レート：2024年度中間期 152円/\$、2025年度中間期 146円/\$

表を用いてご説明いたします。

まず売上高ですが、前年同期をわずかに上回り増収でしたが、期初予想 490 億円に対しましては 17 億円下回りました。

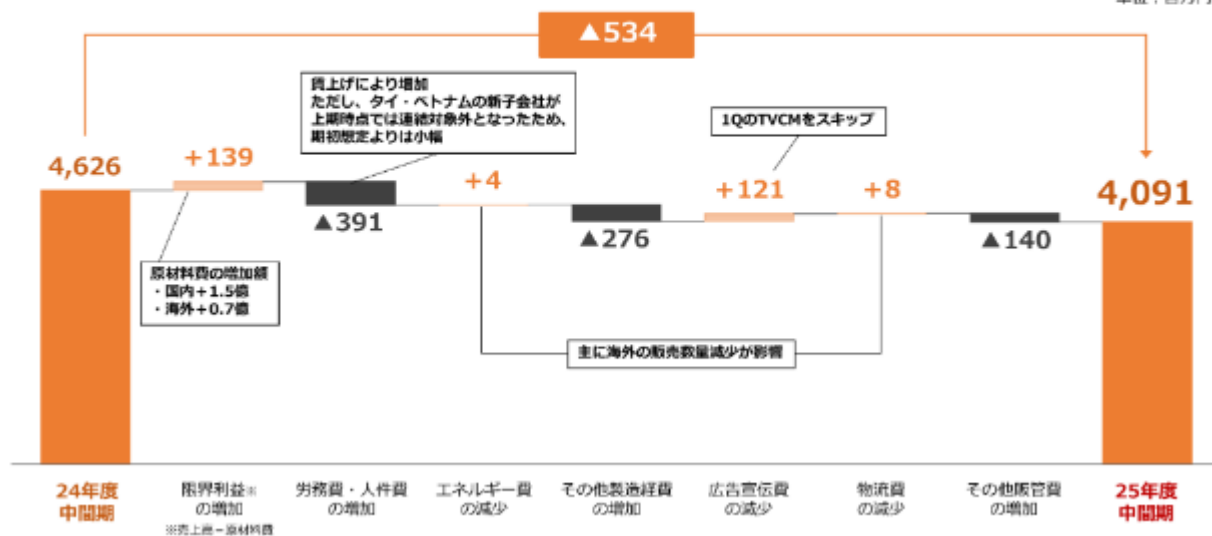
営業利益は前年同期比では 5 億 3,400 万円の減益となりましたが、期初予想を 40 億円としておりますので、期初予想は上回りました。

営業利益率は 0.9 ポイント減少の 8.7%となっております。なお、中間純利益につきましては 33 億 6,100 万円と前年同期比プラス 3.3%となりました。

なお、為替の影響額については欄外に記載しておりますが、売上高でマイナス 1 億 7,700 万円、営業利益 1,700 万円のマイナスと、大きな影響はないと考えております。

・ 売上高の伸び悩みによりコストアップを吸収できず減益

単位：百万円



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

5

続きまして、営業利益の増減要因についてご説明いたします。

全体では5億3,400万円の減益となっております。労務費・人件費が増加。また、その他製造経費、その他販売管理費も増加をいたしまして減損要因となっております。

一方、限界利益の増加、広告宣伝費の減少等増益要因もありまして、結果的に先ほど申し上げたとおり、5億3,400万の減損となりました。しかしながら期初予想は上回っております。

- ・ 投資有価証券売却益は前年同期より減少も、計画に対しては上振れ
- ・ 特別損失の減少により中間純利益は前年を上回る

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	主な増減要因（前年同期比）
営業利益	4,626	4,091	▲534	
営業外収益	642	497	▲144	受取配当金（▲151）
営業外費用	481	220	▲261	為替差損（▲262）
経常利益	4,786	4,368	▲417	
特別利益	681	400	▲281	投資有価証券売却益（▲245）
特別損失	961	240	▲720	退職給付制度改定損（▲680）
税引前利益	4,507	4,528	+21	
法人税等	1,250	1,164	▲85	
非支配株主に帰属する中間純利益	2	2	+0	
親会社株主に帰属する中間純利益	3,255	3,361	+106	

営業外収支、特別損益の増減についてご説明いたします。

まず営業外収益でございますが、政策保有株式の売却を進めております。よって受取配当金が減少し、営業外収益全体も減少しております。営業外費用は為替差損が減ったことから減少しております。

特別損益についてご説明いたします。特別利益は投資有価証券の売却益が前年対比少なかったことから減少いたしました。なお、政策保有株式の売却については計画的に継続的に進めております。また特別損失については、前年同期には退職給付制度の改定損がありましたが、今年度はこういった大きなことが発生していないため大きく減少いたしました。その結果、中間純利益は記載のとおり1億600万円増益となりました。

・ 国内食品事業、国内化成品その他事業は増収増益

(百万円)		2024年度 中間期*	2025年度 中間期	増減額	増減率	期初予想
国内食品事業	売上高	32,267	32,785	+517	+1.6%	33,700
	営業利益	3,495	3,531	+36	+1.0%	3,420
	営業利益率	10.8%	10.8%	▲0pt		10.1%
家庭用食品	売上高	6,754	6,861	+107	+1.6%	7,000
業務用食品	売上高	11,415	11,454	+39	+0.3%	11,700
加工食品用原料等	売上高	14,098	14,469	+370	+2.6%	15,000
国内化成品その他事業	売上高	3,874	4,219	+345	+8.9%	4,200
	営業利益	427	471	+44	+10.3%	400
	営業利益率	11.0%	11.2%	+0.2pt		9.5%
海外事業	売上高	11,582	11,149	▲432	▲3.7%	11,800
	営業利益	638	81	▲556	▲87.2%	200
	営業利益率	5.5%	0.7%	▲4.8pt		1.7%

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

*2025年度よりセグメント営業利益の測定方法を変更。2024年度中間期の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載

7

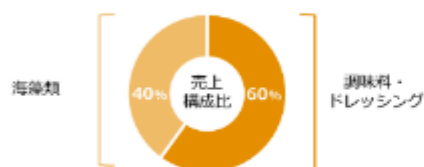
セグメント別の業績についてご説明いたします。

まず前年度対比では、表のとおり国内食品事業、国内化成品その他事業は増収増益となっております。一方、海外事業については減収減益で着地いたしました。

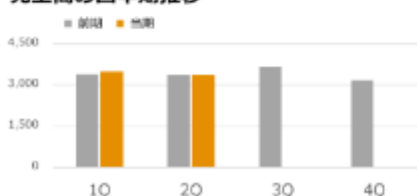
右側に期初予想を記載しております。期初予想との対比では、国内食品事業は売上高が予想を下回りましたが、営業利益率は期初予想を上回っております。国内化成品その他事業については、売上高、営業利益ともに期初予想を上回りました。海外事業については、売上高、営業利益ともに期初予想も下回っております。

- ・ オイル入りドレッシング、わかめスープなどの販売が伸長
- ・ 高付加価値品の販売増や広告宣伝費の減少などにより営業利益は増加

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	6,754	6,861 ↗



売上高の四半期推移



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

【品群別の概況】

リケンノンオイル



金額：減少 ↘
数量：減少 ↘

TVCMや販促施策を実施するも
販売数量を伸ばせず

オイル入りドレッシング



金額：大幅増 ↗
数量：大幅増 ↗

24年8月発売の新製品※が牽引
※特売品は入庫のため販売していないドレッシング

素材力だし



金額：堅調 →
数量：堅調 →

前期は1QにTVCMを実施
品類はTVCM無しで実績を維持

ふえるわかめちゃん



金額：増加 ↗
数量：減少 ↘

国産は販売感価
比較的安価の韓国産は伸長

わかめスープ



金額：増加 ↗
数量：増加 ↗

25年2月発売の新商品※が貢献
※韓国産のコンソメスープ

ふりかけるザクザクわかめ



金額：大幅減 ↘
数量：大幅減 ↘

コメの収量減が影響し
前半実績は10%以上の数量減

セグメント別の概況についてご説明いたします。

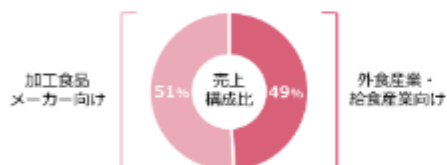
まず家庭用食品でございますが、増収となりました。2024年8月発売の、「洋食屋さんのただただおいしいドレッシング」が、オイル入りドレッシングの増加を牽引いたしました。また、「わかめスープ」も販売が増えました。

一方、ノンオイルドレッシングは販売量を減らしております。また、最近まで販売を伸ばしてきました、「ふりかけるザクザクわかめ」については、お米の価格の高騰の影響もあると考えておりまして、お米を食べる機会が減っているということが推測されまして販売量を減らしております。

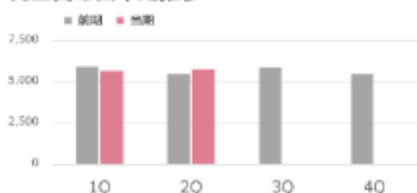
記載のとおり、品群別には増加また減少とございますが、全体としては増収となりました。

- ・ 外食産業向けは大手チェーン季節限定品の反動減を除き堅調
- ・ 一部加工食品メーカー向けの販売減や各種コストの増加により減益

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	11,415	11,454



売上高の四半期推移



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

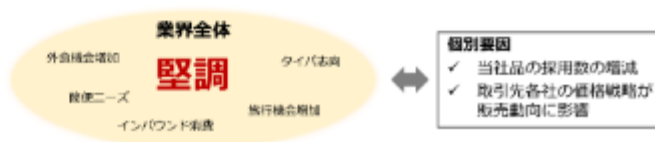
【取引先業界別の概況】

● 外食産業・給食産業向け

- ・ 1Qは季節限定品の採用減少が影響
業界全体の需要は底堅く推移
- ・ 7月に92品、9月に52品の価格改定を実施
品目整理と代替品への統合も進め、収益力を強化

● 加工食品メーカー向け

- ・ 消費者の節約意識の高まりから一部顧客において最終製品
(即席麺など)の販売数量が減少
- ・ CVS向けの海藻商品、麺用ほぐれ剤などが伸長

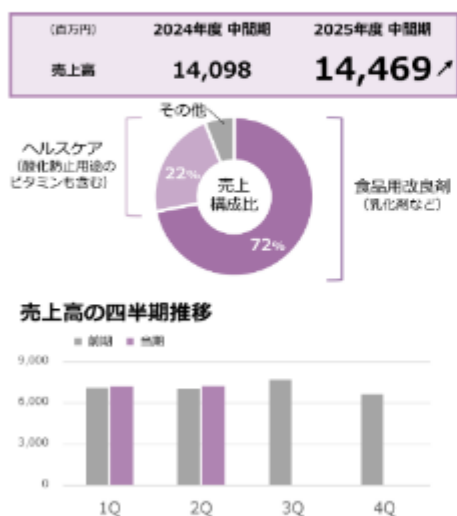


業務用食品事業についてご説明いたします。

業務用食品事業は微増収となっております。外食産業、給食産業向けでは価格改定も進みまして収益力は強化しております。一方で特定の取引先からの受注減少が大きく影響をしております。

また、加工食品メーカー向けでは消費者の節約意識の高まりから、当社の製品をご採用いただいている会社の製品販売量が減っておりまして、その影響で当社の製品も減っております。しかしながら、コンビニエンスストア向けの海藻商品、また麺用のほぐれ剤などは伸長しております。

- ・ 改良剤、ヘルスケア分野とも売上高は増加
- ・ 価格改定効果の浸透に時間を要し、減益



【製品群別の概況】

● 食品用改良剤

- ・ 主力の製パン用は数量・金額とも伸長
- ・ コメ価格高騰の影響を受け、和食関連の業界は不調

● ビタミン

- ・ 酸化防止用は加工油脂向けの需要が減少
- ・ 健康食品メーカー向けや医薬用は伸長
- ・ ビタミン全体の売上は前年同期を上回る

● その他ヘルスケア商品

- ・ クロセチンは飲料や健康食品への採用が拡大
- ・ マイクロカプセルは食品用が伸長



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

10

加工食品用原料等につきましてご説明いたします。

加工食品用原料等も増収となっております。食品用改良剤では、主力の製パン向けが数量、金額ともに伸長いたしました。お米の価格高騰の影響があると考えています。

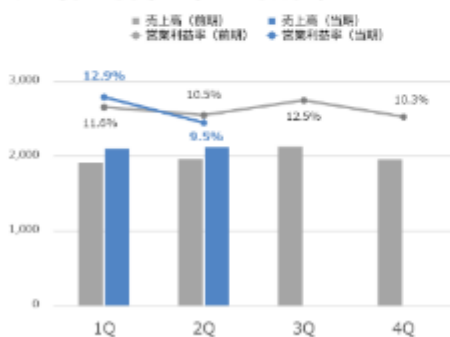
ビタミン事業においては、健康食品メーカー向け、また医薬向けの製品が伸長しております。ビタミン全体では売上を前年同期比上回っております。

また、良質な眠りをサポートする機能を持つクロセチンについては、飲料、健康食品向けで採用が拡大いたしました。

- 化粧品業界向けの販売伸長や新規需要の取り込みにより増収
- 増収効果や工場稼働率の改善により増益

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	3,874	4,219 ↗
営業利益	427	471 ↗

売上高・営業利益率の四半期推移



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

【取引先業界別の概況】

化粧品業界



- 新規採用や、海外市場向けの需要※の取り込みにより販売伸長

※販売先は国内企業

ポリプロピレン系製品



- 国産樹脂に代えて安価な輸入樹脂を使用するメーカーが増加
- 輸入樹脂用として当社改良剤の需要が増加

自動車産業

市場動向
不安定

建材業界



需要低迷

国内化成品その他事業についてご説明いたします。

化粧品業界向けでは、当社の販売先企業の製品の販売増ということも影響いたしまして、当社の製品の販売も増えております。

また、合成樹脂の一種でありますポリプロピレン系の製品については、近時、その材料が国産樹脂から安価な輸入樹脂への切り替えが行われていると。この輸入樹脂を使うときに当社の改良剤が使用されるケースがございまして、当社製品への需要が増えております。

- ・ 中国では化成品向けコモディティ品の生産終了も影響し、売上高が大幅減
- ・ マレーシア、天津の工場稼働減により営業利益は低迷

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期
売上高	11,582	11,149 \
営業利益	638	81 \

売上高・営業利益率の四半期推移



【エリア別の概況】

- **中国：大幅減収**
 - ・ 中国経済全体の冷え込みが続き、需要が低迷
 - ・ 新工場への生産移管を進行中
- **アジア：減収**
 - ・ 東南アジアで価格競争激化により販売数量が減少
 - ・ 台湾・韓国は増収
- **北米：微増収**
 - ・ 1Qは取引先の在庫調整により売上減も、2Qに回復
 - ・ ベーカリー向け製剤やエキスの販売が伸長
- **欧州：減収**
 - ・ 価格競争の激化や中東の情勢不安が影響

※セグメント利益の測定方法変更による影響額
2024年度中間期：▲294百万円、2025年度中間期：▲293百万円

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

12

海外事業につきましてご説明いたします。

売上高、営業利益ともに減収減益となっております。

エリア別について簡単に申し上げます。中国では大幅減収となりました。中国経済全体の冷え込みが続いており、需要が低迷いたしました。アジア、欧州でも減収となっております。ともに改良剤の価格競争の激化により、販売量を減らしております。北米は微増収となっております。北米におけるベーカリー向けの改良剤、また、ポークエキスの販売量が増えました。

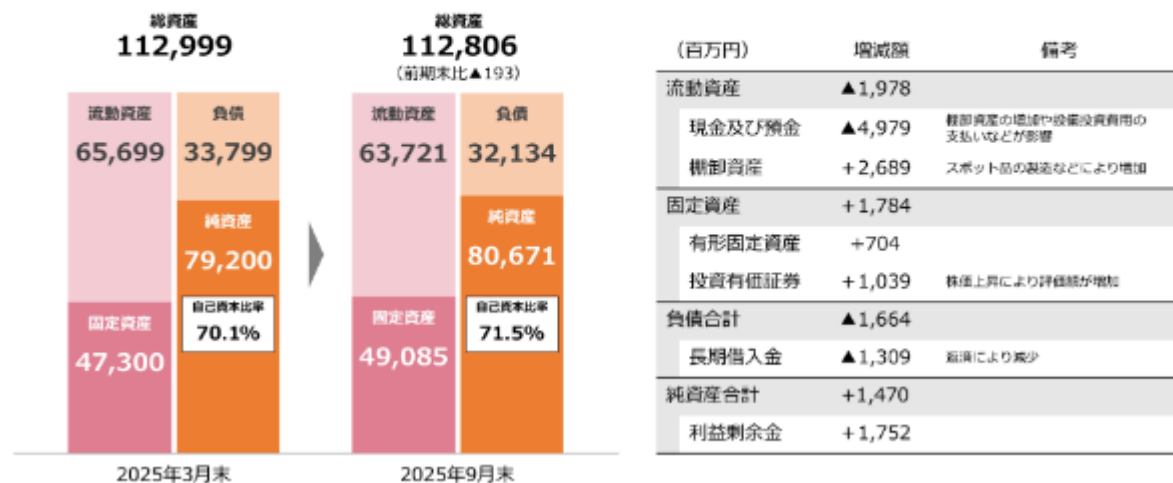
このような売上高の減収の影響もありまして、営業利益も大幅に減っております。

連結貸借対照表

理研ビタミン株式会社

- ・ 現預金の減少などにより総資産は若干減少
- ・ 長期借入金の返済や純資産の増加により自己資本比率が上昇

単位：百万円



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

13

最後に、連結貸借対照表につきご説明いたします。

グラフは今年の3月末と9月末を記載しております。総資産につきましては2億円弱の減少と、ほとんど変わりはありません。

内訳といたしまして、現預金が棚卸資産の増加、また投資した設備の支払等もありまして減少しております。投資有価証券については、この半年も継続的に政策保有株式の売却を進めておりますが、ご存じのとおり株価の上昇もございまして評価額が増加しております。

純資産につきましては、期間利益の積み上げと、今年度より始めております自己株取得による減少等を合わせまして、プラスの14.7億円となっています。

まず、富取より中間期の業績をご説明させていただきました。ありがとうございました。

1. 2025年度 第2四半期（中間期）業績
2. 2025年度 通期業績見通し・今後の取り組み

望月：社長の望月でございます。私からは通期の見通しと今後の取り組みにつきましてご説明をさせていただきます。

あらためまして、本日はお時間をいただきまして大変ありがとうございます。

- **海外の事業環境は厳しい。ただし、海外を軸とする
中長期の成長ストーリーは変わらない**
- **北米や東南アジアでの生産・販売体制を強化し
中長期の成長に向けた基盤を整備**
- **通期業績予想は期初予想を据え置く
売上高のハードルはやや高いが、利益面はインライン**

まず上期の業績を踏まえまして、本日お伝えしたい点を三つにまとめさせていただきました。

一つ目、当社が成長ドライバーと位置付けております海外事業は、足元では非常に厳しい環境にあります。しかし海外を軸に成長するという中長期的ストーリーにつきましては変化はございません。

二つ目。このストーリーの実現に向けて、北米と東南アジアで生産・販売体制を強化してまいります。

三つ目、今期の通期業績予想につきましては期初予想を据え置きます。上期の進捗状況から見れば、売上のハードルはやや高いですが、利益はインラインにあります。現時点では業績予想の修正は不要だと判断をしております。

- ・ 前中計の3年間で着実に株価は上昇
- ・ ただし直近のPERは10倍台で、成長期待を十分に醸成できていない



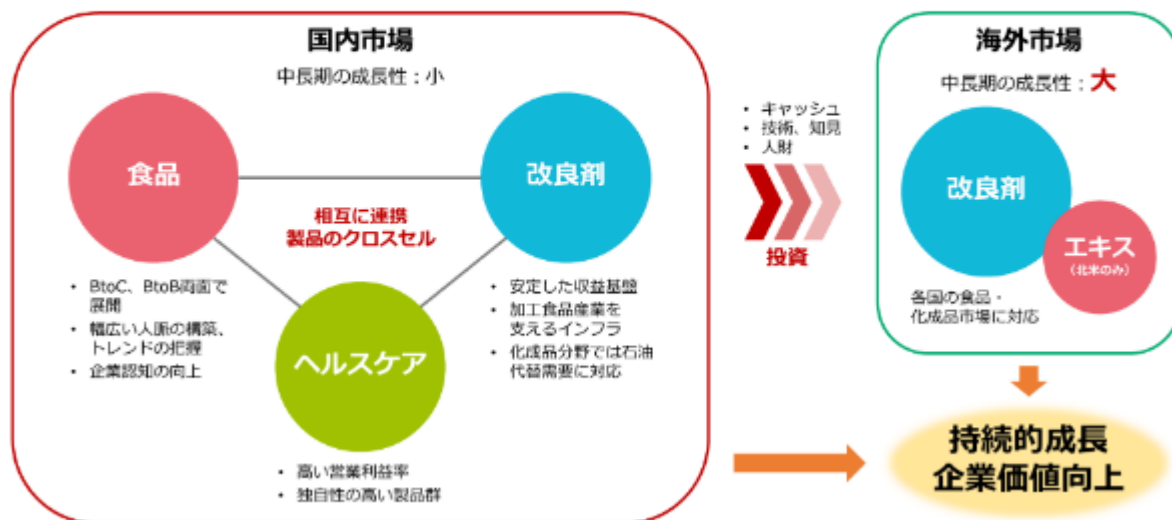
Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

具体策に入る前に、株価の推移について振り返らせていただきます。

前中期計画3年間、当社は事業環境の変化に対応し、業績を伸ばしてまいりました。それに伴い株価も着実に上昇してまいりました。今期も上昇基調にあります。10月末時点の指標はPBR1.1倍、PER10.1倍にとどまっております。

ここからさらに株価を上げていくためには、投資家の皆様と当社の中長期成長ストーリーをしっかりと共有することが重要であると考えてございます。

- ・ 国内は食品・改良剤・ヘルスケアのシナジーで安定的に成長
- ・ 生み出したキャッシュ、培った技術などを海外市場へ投資



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

17

このスライドが当社の成長ストーリーの要約となります。

国内市場は中長期的には成長が小さいものの、食品、改良剤、ヘルスケアの三つのコア事業のシナジーを活かすことで安定的に利益を創出することができます。

国内で生み出しましたキャッシュ、技術、人財、これを成長性の大きい海外の投資に投じます。結果として、持続的成長と企業価値の向上を目指してまいります。なお、国内事業を縮小して海外に集中するというものではありません。持続的に着実に成長できるポテンシャルがあると考えております。

当社の成長性について一層の期待をしていただけるように、引き続き経営の改善に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

- ・ 初の売上高1,000億円台を目指す
- ・ 特別利益の減少が当期純利益に影響するも、ROEは10%以上を維持

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額	増減率
売上高	95,582	100,000	+4,417	+4.6%
営業利益	8,724	8,500	▲224	▲2.6%
営業利益率	9.1%	8.5%	▲0.6pt	
EBITDA (営業利益+減価償却費)	11,928	12,000	+71	+0.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	9,388	8,200	▲1,188	▲12.7%
ROE	12.1%	10.2%	▲1.8pt	

為替前提：150円/ドル

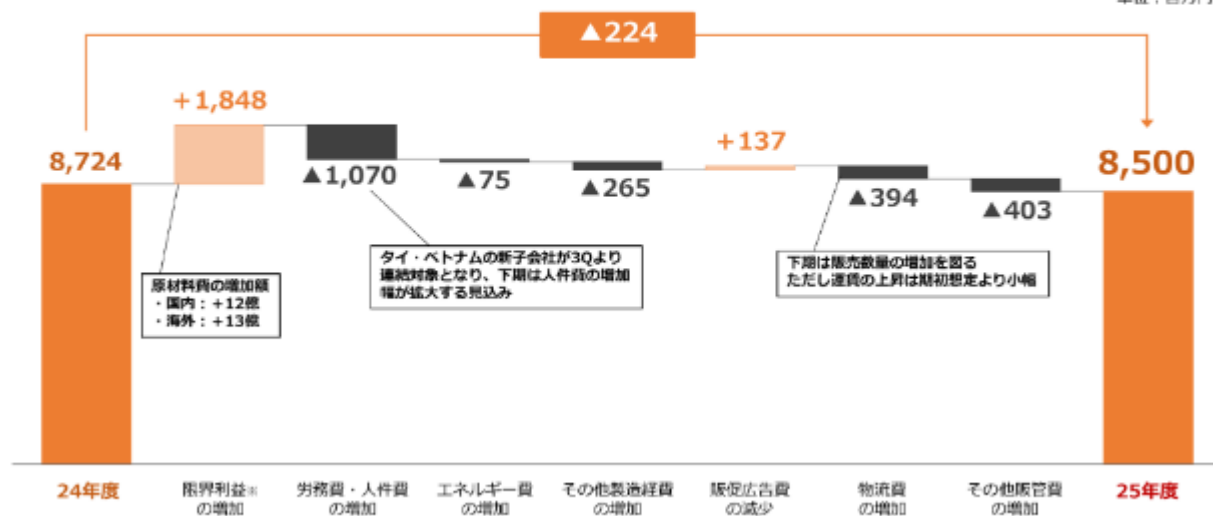
続いて、当期の見通しについてご説明申し上げます。

当期の通期予想につきましては、先ほども申し上げましたとおり、期初予想を据え置きます。当社グループとして初めての売上高 1,000 億円の達成を目指してまいります。この目標に向けて、各事業で販売拡大を進めてまいります。

一方で、政策保有株式の縮減に伴う売却益は前期を下回りまして、当期純利益は減少の見込みとなります。ただし、ROE は 10%を維持する見通しでございます。

・ コスト構造はやや変わるが、結果的に期初予想並みの着地を見込む

単位：百万円



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

19

営業利益の増減要因につきましてはこちらのとおりでございます。

期初予想に比べますと海外の原材料費が増加。一方で、労務費・人件費、物流費は減少する見込みでございます。

・ 国内外とも上期実績を上回る売上高が必要

(百万円)		2025年度 中間期 (A)	(B) - (A)	2025年度 通期予想 (B)	
国内食品事業	売上高	32,785	34,614	67,400	
	営業利益	3,531	3,518	7,050	
	営業利益率	10.8%	10.2%	10.5%	
家庭用食品	売上高	6,861	7,138	14,000	
業務用食品	売上高	11,454	11,945	23,400	
加工食品用原料等	売上高	14,469	15,530	30,000	
国内化成品その他事業	売上高	4,219	4,480	8,700	
	営業利益	471	378	850	
	営業利益率	11.2%	8.5%	9.8%	
海外事業	売上高	11,149	14,150	25,300	売上高の増加による 粗利獲得が必須
	営業利益	81	568	650	
	営業利益率	0.7%	4.0%	2.6%	

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

20

セグメント別の業績予想についても変更はございません。

スライドの赤い列は、通期予想から上期実績を差し引いた数字でございます。各セグメントとも下期は上期を上回る売上が必要となります。特に海外事業につきましては、利益面でも上期の遅れが大きいいため、売上を伸ばし、利益を積み上げていくということが必要となります。

- ・ 家庭用はターゲットを明確にした販促策や新商品の育成に注力
- ・ BtoB分野では価格改定による収益改善と成長市場への提案強化を進める

(百万円)	2024年度	2025年度 予想
売上高	64,821	67,400 ↗
営業利益	6,659	7,050 ↗

家庭用食品



- ・ ドレッシングは9～10月に人気アーティストとのコラボ企画を実施
- ・ 素材力だしは10～11月にTVCMを実施



- ・ 下味冷凍用おかずの素「パッとジューと」シリーズなど新商品群の店頭露出増を図る

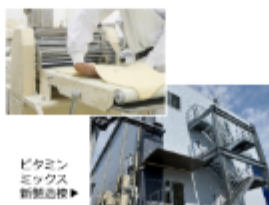
業務用食品



当社ウェブサイトより

- ・ EC市場の活用などによるBtoC展開
- ・ 中食市場への提案強化（セントラルキッチン・プロセスセンター、CVSなど）
- ・ No.1ブランドを持つ加工食品メーカーとの取引拡大

加工食品用原料等



- ・ 若手社員育成によりソリューション営業力強化
 - ・ 食品用改良剤の技術研修
 - ・ 生産設備の勉強会
- ・ 製パン、製粉、製菓など好調な業界への提案を強化
- ・ ビタミンミックス増産に向けた拡売

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

21

セグメント別の見通しについて説明を申し上げます。まず、国内食品事業です。

家庭用食品につきましては若年層をターゲットに販売促進と新商品の育成を進めてまいります。業務用食品につきましては、EC市場を活用して販路を拡大、成長市場である中食市場への提案を強化していくこと。そして冷凍食品などでNo.1ブランドを持つメーカーとの取引の拡大を目指してまいります。

加工食品用原料等につきましては、当社の強みでありますソリューション提案活動営業をさらに強化するための社員教育を充実させて、製パン業界など、好調な分野への提案を進めてまいります。

そして、ヘルスケア分野におきましては、新設のビタミンミックス生産ラインが12月から稼働を予定しておりまして、その稼働に合わせてビタミンミックスの拡販を進めてまいります。

- ・ 上期進捗は順調、下期も大きなマイナス要因は無し
- ・ 価格改定の着実な遂行と新規テーマの早期実績化で上積みを図る

(百万円)	2024年度	2025年度 予想
売上高	7,959	8,700 ↗
営業利益	895	850 ↘

業績見通しのポイント

- 上期の市場環境は期初想定と異なるも、新規実績などで不調分野をカバー
- 下期もコスト高は続くが、現時点で想定される大きなマイナス要因は無し

価格改定が着実に進めば
通期予想は十分達成可能

【新規テーマの例】

食品容器用 塗布型防曇剤



- ・ 樹脂自体に練り込むタイプでは既にトップシェア
- ・ 樹脂表面に塗布するタイプでもシェア獲得を図る

他社との協業



- ・ リソースを再配分し、得意分野への注力と業務効率化を図る
- ・ 化粧品業界への販売などでは他社との協業も検討

環境対応製品の拡販



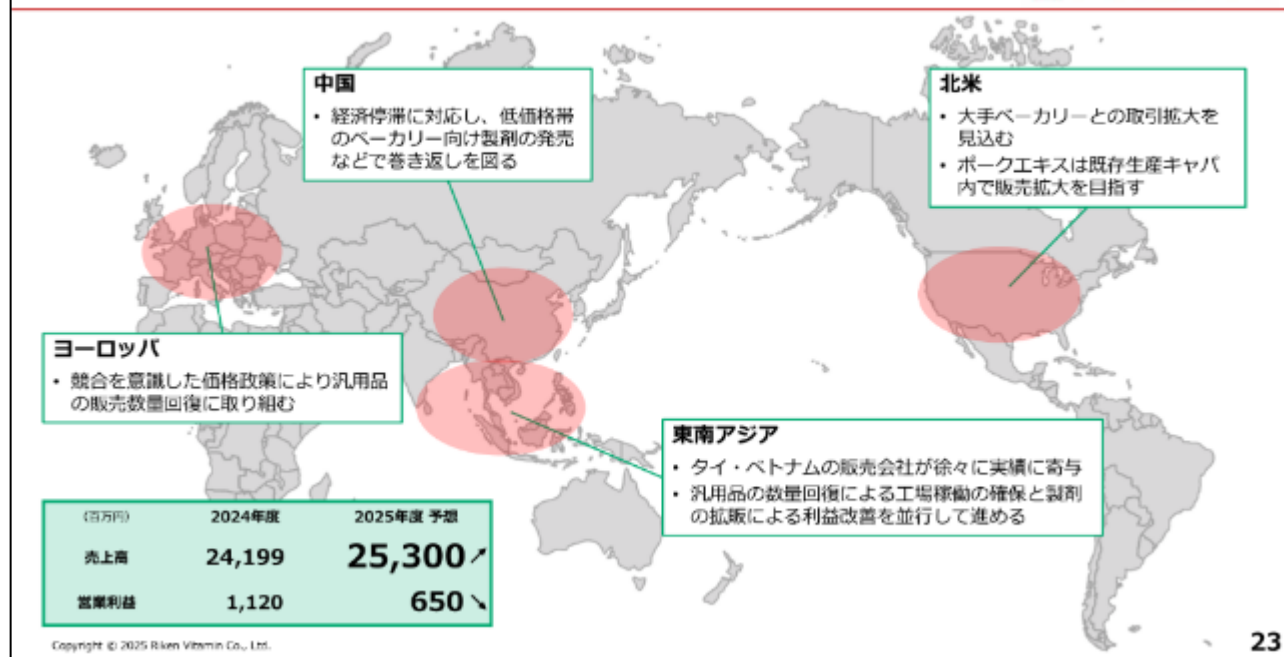
- ・ 植物由来の可塑剤、相溶化剤などを住宅資材向けに提案
- ・ 中長期的な石油由来製品からの需要のシフトを見据える

国内化成品その他事業についてです。

上期は売上高、営業利益ともに計画をクリアいたしました。下期もコストアップを価格改定で打ち返す見込みでございます。さらなる業績の上積みを図るために、新規テーマへの取り組みも進めてまいります。

例えば防曇剤分野です。食品包装用の防曇剤におきましては、樹脂自体に練り込むタイプの製品で、私どもは高いシェアを保有してございます。今後は樹脂表面に塗るタイプの防曇剤においてもシェアの獲得を狙ってまいります。

また、化粧品業界向けの取り組みにつきましても伸長が期待できる分野でありまして、他社との協業による販売拡大を図ってまいります。



海外事業についてご説明申し上げます。

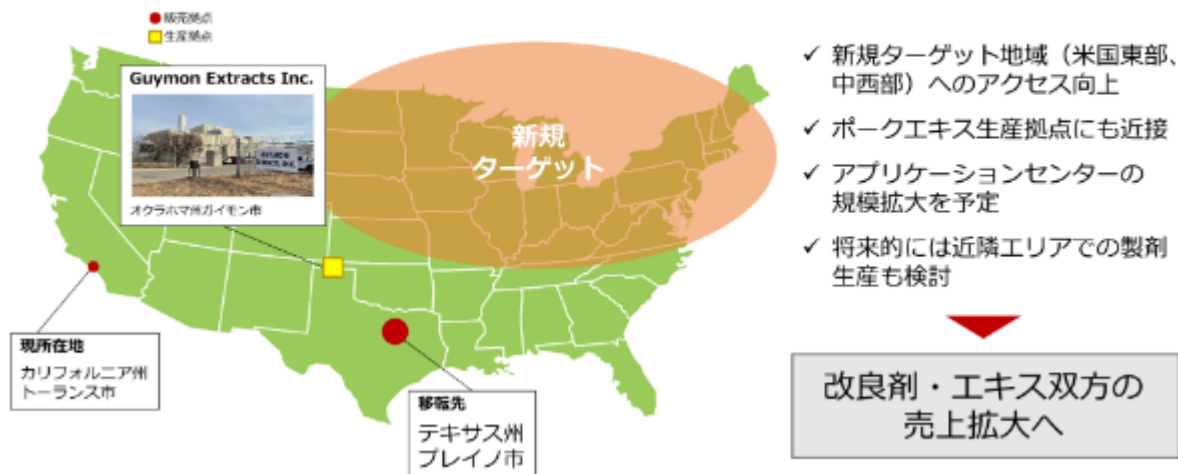
まず中国です。上期は苦戦いたしました。景気回復をただ待つのではなく、現在の環境に対応した。低価格帯の製剤提案で巻き返しを図ってまいります。

次に北米です。大手ベーカリーの一部工場において当社の製剤が採用となりました。非常に高い評価をいただいております。今後、別の工場への採用拡大に向け、引き続きフォローをしてまいります。

東南アジアです。タイ、ベトナムの新子会社で売上が徐々に立ち始めております。上期時点では非連結でしたが、下期には連結に加わり、売上に貢献する見込みとなっております。

最後にヨーロッパです。汎用品の主要な市場でございまして、工場稼働を維持する役割、つまり稼働率の維持を担っている市場であります。上期は価格競争の激化で数量を落としましたが、下期は可能な限り価格でも対応し、販売数量の回復を目指してまいります。

- ・ Riken Vitamin USA, Inc.をカリフォルニア州からテキサス州に移転
- ・ 移転完了は2026年度第1四半期を予定



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

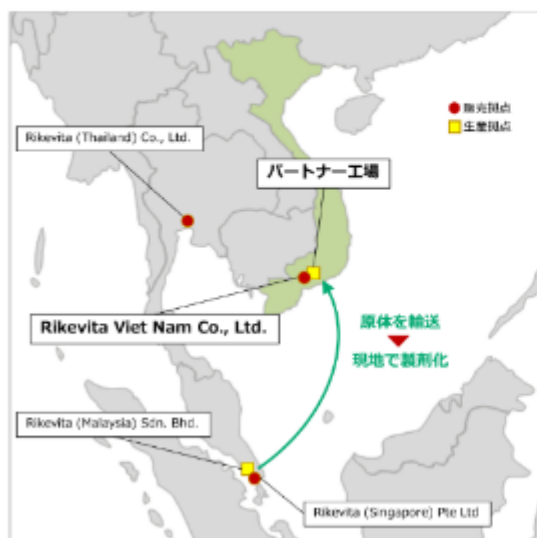
24

ここで、海外事業のトピックスを二つご説明申し上げます。

一つ目は、北米の拠点施設です。米国の販売子会社、Riken Vitamin USA の事務所を、カリフォルニアからテキサス州ダラス近郊へ移転いたします。全米展開を視野に入れますと、現拠点は東部、中西部へのアクセスがネックとなっていました。テキサスは各地域へのアクセスが良好で、将来メリットが大きいと判断いたしました。移転に合わせまして、食品用改良剤のアプリケーションセンターとラーメンラボの規模拡大を予定してございます。

開発、販売体制の強化による売上拡大を見据え、製剤の現地生産の可能性も今後検討してまいりたいと考えております。

・ 現地生産により、ニーズ対応力を向上



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

東南アジアでの製剤販売プロセス

- ① マレーシアで乳化剤原体（汎用品）を生産
- ② マレーシアで原体を加工し、顧客のニーズに合った製剤を生産
- ③ 東南アジア各国に輸出



課題

- ✓ マレーシア工場の既存設備は少量多品種の製剤生産には不向き
- ✓ 国ごと、顧客ごとの細かなニーズへの網羅的な対応が困難

現地生産

- ・ 製剤生産の効率化
- ・ 現地のニーズに柔軟に対応
- ・ 取引サイクルの加速

25

二つ目は、ベトナムでの製剤の現地生産です。

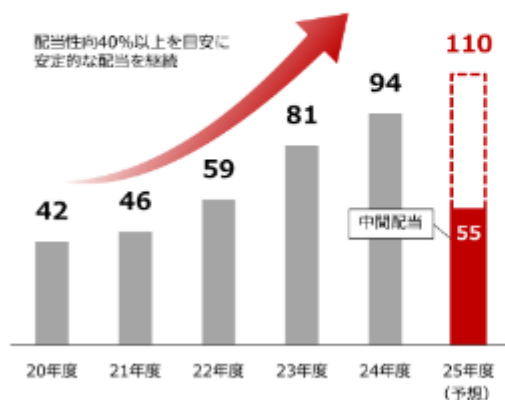
従来、東南アジア向けの改良剤は原体、製剤ともにマレーシア工場で生産しております。しかし既存設備では少量多品種への対応が難しくなっており、中期計画において製剤ラインの刷新を計画しておりますが、完成までの時間を要します。

そこで、ベトナムのパートナー工場で製剤化の委託を進めています。これにより顧客ニーズに素早くスピード感を持って対応していく考えであります。ベトナムの状況を見ながら、他エリアでの現地生産も検討してまいります。

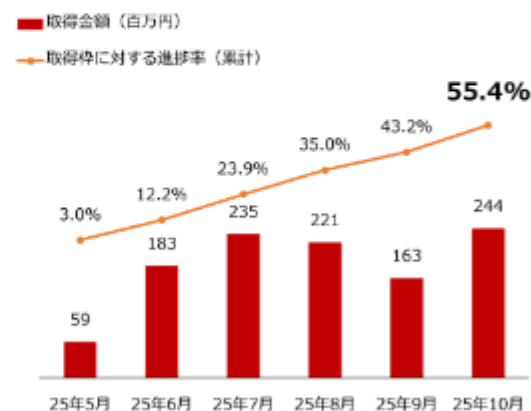
東南アジアで製剤販売を拡大し、安定的に利益を獲得できる体制を整えてまいります。

- ・ 配当予想は変更無し
- ・ 自己株式取得（20億円）は順調に進行中

1株当たり年間配当金推移(円)



自己株式の取得状況



Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

26

最後に、株主還元についてご報告いたします。

まず配当です。期初予想から変更はございません。年間配当は110円、うち55円は中間配当として12月にお支払することを決定しています。

次に、自己株式の取得です。取得額は20億円、この枠内で毎月計画的に買い付けを進めています。10月末時点の進捗率は55%で、順調だと認識してございます。追加の自己株式取得についても、今後、市場の動向を見ながら機動的に判断をしてまいります。

以上で私の説明を終わらせていただきます。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

持続可能な社会を スペシャリティな製品とサービスで支え、 成長する会社になる



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は今後さまざまな要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ先：広報 I R 部 pr_jr@rikenvitamin.jp

補足資料

・ 棚卸資産の増加などにより営業CFは減少

(百万円)	2024年度 中間期	2025年度 中間期	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,836	713	▲2,122	フリー・キャッシュ・フロー 2024年度 中間期 2,007 ↓ ▲201 2025年度 中間期 1,805
退職給付に係る資産および負債の増減額	350	▲322	▲672	
棚卸資産の増減額	▲520	▲2,666	▲2,145	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲828	1,092	+1,920	
定期預金の払戻による収入	1,261	3,279	+2,018	
有形固定資産の取得による支出	▲2,166	▲2,678	▲511	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,984	▲3,739	▲755	
短期借入金の純増減額	▲160	+51	+211	
自己株式の取得による支出	▲0	▲863	▲863	
現金及び現金同等物の中間期末残高	19,632	16,840	▲2,791	

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

29

2025年度 セグメント別業績予想

(百万円)		2024年度 実績*	2025年度 予想	増減額	増減率
国内食品事業	売上高	64,821	67,400	+2,578	+4.0%
	営業利益	6,659	7,050	+390	+5.9%
	営業利益率	10.3%	10.5%	+0.2pt	
家庭用食品	売上高	13,586	14,000	+413	+3.0%
	売上高	22,755	23,400	+644	+2.8%
	売上高	28,480	30,000	+1,519	+5.3%
国内化成品その他事業	売上高	7,959	8,700	+740	+9.3%
	営業利益	895	850	▲45	▲5.0%
	営業利益率	11.2%	9.8%	▲1.4pt	
海外事業	売上高	24,199	25,300	+1,100	+4.5%
	営業利益	1,120	650	▲470	▲42.0%
	営業利益率	4.6%	2.6%	▲2.0pt	

*当期末よりセグメント営業利益の算定方法を改定。2024年度中間期の営業利益は改定後の算定方法に基づいて再算した数値

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

30

連結業績推移



(百万円)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 予想
売上高	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	88,750	91,484	95,582	100,000
前期比増減率	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.3%	1.9%	12.0%	3.1%	4.5%	4.6%
営業利益	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	7,158	9,371	8,724	8,500
前期比増減率	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 74.2%	327.2%	22.6%	30.9%	▲ 6.9%	▲ 2.6%
売上高営業利益率	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	8.1%	10.2%	9.1%	9.2%
経常利益	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	7,723	10,296	9,417	9,000
売上高経常利益率	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	8.7%	11.3%	9.9%	9.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,107	4,089	4,800	2,623	▲ 8,933	▲ 1,618	21,582	6,414	8,755	9,388	8,200
売上高当期純利益率	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	7.2%	9.6%	9.8%	8.2%
総資産額	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	105,223	118,776	112,999	
純資産額	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	71,371	76,643	79,200	
自己資本比率	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	67.8%	64.5%	70.1%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	7,835	10,451	7,892	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 6,389	▲ 3,080	▲ 1,617	▲ 3,388	▲ 4,282	▲ 2,322	▲ 3,661	▲ 2,034	▲ 554	353	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,140	▲ 1,881	▲ 5,869	▲ 2,490	▲ 3,051	▲ 180	▲ 7,565	▲ 4,578	▲ 7,084	▲ 9,965	
ROE	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 3.5%	38.3%	9.3%	11.8%	12.1%	10.2%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

31

セグメント別四半期累計業績推移



(百万円)		2024年度				2025年度				2025年度予想	
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	上期	通期
売上高	国内食品事業	16,441	32,267	49,503	64,821	16,373	32,785			33,700	67,400
	家庭用食品	3,397	6,754	10,412	13,586	3,495	6,861			7,000	14,000
	業務用食品	5,946	11,415	17,287	22,755	5,670	11,454			11,700	23,400
	加工食品用原料等	7,097	14,098	21,803	28,480	7,207	14,469			15,000	30,000
	国内化成品その他事業	1,913	3,874	6,002	7,959	2,102	4,219			4,200	8,700
営業利益	海外事業	5,548	11,582	18,382	24,199	5,098	11,149			11,800	25,300
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 574	▲ 1,035	▲ 1,398	▲ 316	▲ 889			▲ 700	▲ 1,400
	連結合計	23,626	47,149	72,852	95,582	23,257	47,265			49,000	100,000
	経常利益	2,927	4,786	8,241	9,417	2,531	4,368			4,400	9,000
親会社株主に帰属する四半期/当期純利益		2,370	3,255	5,834	9,368	1,825	3,361			2,900	8,200

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
上記2024年度の営業利益は変更後の測定方法に基づいて作成した数値を記載しています。

Copyright © 2025 Riken Vitamin Co., Ltd.

32

(百万円)		2024年度				2025年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業	16,441	15,825	17,235	15,318	16,373	16,412		
	家庭用食品	3,397	3,356	3,657	3,174	3,495	3,366		
	業務用食品	5,946	5,468	5,872	5,468	5,670	5,784		
	加工食品用原料等	7,097	7,001	7,705	6,676	7,207	7,261		
	国内化成品その他事業	1,913	1,960	2,128	1,956	2,102	2,116		
	海外事業	5,548	6,033	6,799	5,817	5,098	6,050		
	調整額（セグメント間消去）	▲ 277	▲ 296	▲ 461	▲ 362	▲ 316	▲ 572		
	連結合計	23,626	23,523	25,702	22,730	23,257	24,007		
営業利益	国内食品事業	1,904	1,590	2,161	1,001	2,040	1,491		
	国内化成品その他事業	222	204	265	202	270	200		
	海外事業	256	381	499	▲ 17	▲ 0	82		
	調整額（セグメント間消去）	138	▲ 73	▲ 8	▲ 7	55	▲ 48		
	連結合計	2,522	2,104	2,918	1,179	2,365	1,726		
経常利益		2,927	1,859	3,454	1,176	2,531	1,837		
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,370	884	2,578	3,554	1,825	1,536		

*2025年度より、従来報告セグメントごとに配分していなかった全社費用の一部を主に海外事業に配分しています。
上記2024年度の営業利益は変更後の額定方法に基づいて作成した数値を記載しています。